

アワヨトウ大発生によるデントコーン被害について

積山 嘉昌

広島大学技術センター 〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

Technical Center, Hiroshima University.

1-1-1 Kagamiyama, Higashihiroshima, Hiroshima 739-8524, Japan

6/22日(木)に2-3号圃場の管理に行く途中、2-1号圃場(デントコーン)に虫(アワヨトウ)を発見した。6/26(月)に2-1号圃場に除草剤散布中、2-2号圃場(デントコーン)にアワヨトウが大量にいることを発見したため、黒川先生、実岡先生に相談した。実岡先生のご助言により、急遽、殺虫剤(スミチオン乳剤)を発注、6/27(火)に2-1、2-4号圃場(デントコーン)に散布した。2-2号圃場のデントコーンは1日で壊滅状態になった。2-1号圃場のデントコーンも約2/3被害にあう。2-4号圃場のアワヨトウによる被害は食い止められた模様であった。

また、6/26(月)に2-1号に除草剤散布後、夕方8号圃場に確認に行ったところ、アスファルトや、圃場入口が真っ黒になるほどアワヨトウが発生しており、6/27(火)には、ほぼ壊滅状態となった。8号は収穫1ヶ月前で、デントコーンの丈が大きくトラクターが入れない為、手の打ちようがなかった。そのため、被害にあったデントコーンは圃場に漉き込み、あらためてソルゴーを播きなおした。

7/3(月)に広島県西部農業技術指導所植物防疫チームの外園氏、岩本氏が農場に被害確認に来られて、アワヨトウの被害であることを確認していただいた。中国地方のあちこち(県内では、近隣、安芸高田市等)で、被害が出ているとの情報をい

ただいた。稲の病害虫の為、トウモロコシでこれだけの被害は見たことがないと言っておられた。またアワヨトウの幼虫の数を数えていただいたところ、7/3当日には、8-1号(90a)で約450万匹、ピーク時には、その2~3倍はいただろうと推定された。

このような大発生に至った場合、アワヨトウの被害を抑制するためにできることはないとのことなので、新たにデントコーンなどの種を播く場合には、殺虫剤を準備しておいて、観察を心がける必要がある。また、次のアワヨトウ発生のピークは8月上旬くらいからの可能性があるとの情報もいただいた。しかし、29年度においては、アワヨトウの大発生は上述の1回のみであり、被害を受けなかったデントコーン、播きなおしたソルゴーは無事収穫に至ることができた。

【あいち病害虫情報】によると、幼虫初期は葉に不規則な食痕を残すが、成長すると昼間は株元に潜み夜間に食葉する。冠水田に多発するが、それ以外でも出穂期に多発し葉や穂も食べる。冬期温暖少雨年に多発したことが多い。

全国に分布する。幼虫が1月の平均気温4℃以上の牧草(地)の株元で越冬し、年3~5回発生する。卵期は約7日、幼虫は6齢を経て20~30日で蛹化、10~15日で成虫になる。枯葉の隙間に1雌約2000粒を産卵する。



赤で囲った範囲がアワヨトウの被害を受けたところ (2-1 号圃場, 2-2 号圃場)



アワヨトウの幼虫



アスファルトを這うアワヨトウの幼虫



8号圃場のデントコーンの残骸